

資料 6

宇宙安全保障部会における工程表改訂作業で検討すべき論点（案）

平成 27 年 9 月 25 日

中須賀真一

- 工程表の改訂に当たっては、宇宙基本計画及びその工程表に記載されている政策目標やそのためのアクションが、具体的な成果を着実に生み出していくよう、関係府省や関係者が継続的に取組を行っていくための枠組みや仕組みの構築、スケジュールの策定に特に留意していく。また、活動の継続性、拠点の明確化、知見や経験がたまっていく仕組みづくりに注意を払う。
- 準天頂衛星システムの利活用の促進等については、関係府省における潜在的ニーズの調査を進めつつ、その結果を準天頂衛星システムの仕様に的確に反映する。
- 即応型小型衛星等及びその打ち上げシステムについては、年度内に課題等の整理、来年度に運用上のニーズや運用構想等についての検討を行う。年度内に取りまとめる課題等の整理結果は、来年度以降の取組に反映するとともに、それ以降の工程表にも反映する。
- 宇宙状況把握にかかる施設等の全体システム設計及び事業推進のために必要となる体制強化に関し、平成 28 年度以降の取組の具体化を図る。その際、米国とも連携しつつ、円滑かつ効果的な運用を図るための体制について検討を進めることが必要。
- 海洋状況把握については、現在、関係各府省で進められているコンセプト策定を踏まえ、平成 28 年度からの関連情報の共有深化や衛星情報の試験的利活用の取組に向けた作業の具体化を図る。
- 宇宙システム全体の抗たん性強化については、調査検討を年度内に取りまとめる。その結果を踏まえて平成 28 年度以降の取組を検討・実施する。調査に当たっては、関係府省や関係者の協力を得つつ、まず、各宇宙関連アセットの抗たん性の現状とそれらが故障したときの影響について国内状況及び海外動向の把握に努める。これらの調査検討作業及び関係府省との議論を踏まえ、抗たん性強化に関する具体的取組の検討とその工程表への反映を図る。